

「教科書の編集・校閲に携わって」

トキワ松学園中学校高等学校

佐藤 毅

学校の第一線で授業を担当している先生方の中でも、実際の検定教科書の編集や校閲に携わっている方は少数だと思います。また、塾現場や教育関係者の皆さん方なら、なおさら検定教科書の編集や校閲は縁の遠い世界でしょう。そこで、トキワ松学園中学校高等学校の佐藤 毅先生に無理をお願いし、検定教科書の編集・校閲について寄稿をいただきました。ご紹介します。ご協力いただきました佐藤先生、寄稿に当たってご快諾いただいた株式会社 第一学習社の皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。

編集部

【著者紹介】

佐藤 毅（さとう たけし）

1974（昭和49）年，東京都生まれ。日本体育大学体育学部健康学科出身。競泳，健康学が専門。

主な資格は中学校・高等学校教諭一種免許（保健体育），養護教諭一種免許，学校図書館司書教諭免許，第一種衛生管理者免許，SAJ 公認スキー準指導員。主に臓器移植をテーマにした「いのちの授業」が注目を集め，公開授業や講演実績も多数。また，公立・私立問わず，多くの学校で出張道徳授業を行い幅広く活動。受賞歴は第62回読売教育賞優秀賞受賞（保健体育の部）第30回東書教育賞入選（道徳）。現在，トキワ松学園中学校高等学校（東京都目黒区）保健体育科教諭。

1: はじめに

文部科学省のHP（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/main3_a2.htm）には、<教科書とは>「教科書は正式には「教科用図書」といい、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校などの学校で教科を教える中心的な教材として使われる児童生徒用の図書のことです。我が国では学校教育における教科書の重要性を踏まえ、原則として上記の学校では文部科学大臣の検定に合格した教科書を使用しなければなりません。」<教科書が使用されるまで>「教科書は、まず民間で著作・編集され（1年目）文部科学省に置かれた専門家による審議会が教科書として適切かどうかを審査します（2年目）。合格したものの中から、教育委員会や国立・私立学校の校長が使用する教科書を選びます（3年目）。翌年度、ようやく実際に子どもたちに使用されることとなります（4年目）」と記されています。

この度，その教科書の編集に携わりました。第一学習社から依頼を受け，編集協力・校閲をし

ました。今回，本稿では，2014年10月に話をいただいてから，検定に合格し，2016年5月に見本が手元に届くまでの経緯や実際の内容・作業などについてご紹介します。

2: 編集協力・校閲するに至った経緯

本稿末の主な活動実績（*1）にあるように，第一学習社との関係は，2012年に第一学習社発行の教育情報誌「エデュカール」に『いのちについて考える保健の授業』という特集が生まれ，執筆したことに始まります。その後，編集部のH氏や営業部のS氏と，私の教育観，保健体育科の教育，それ以外にも他教科の教育，現在の学校教育の問題点や今後の社会など，多岐にわたり様々な分野について議論を重ねていました。

そんな中，2014年10月に，2017年発行予定の高等学校「改訂版 保健体育」の校閲に協力してもらえないかという打診を受けました。学校長に確認し，許可をいただき，正式に教科書の編集に関わることになりました。

3：内容

3-1・編集協力・校閲の実際

既に著者が作成したものを「内容，文章表現等に不適切な部分がないか」「不足している重要語句，内容などがいいか」という観点で，第一学習社から提示されている，5つの基本方針に基づいて作業を進めます。

本教科書は，第1章から6章（176ページ）で構成されていて，私は，第2章・生涯を通じての健康から第3章・社会生活と健康，そして，用語解説・保健編の約60ページ分を担当させていただきました。このなかで，見開きで見やすいレイアウトになっているか，また，本文以外の注釈の充実度や生徒にとって学習しやすい構成となっているかなども確認しました。

3-2・これまでの教員経験が役立ったこと

1996年度に大学を卒業し，1997年度から3年間勤めた高等学校では，体育科教育が重視され，保健科教育がそれほど熱心ではありませんでした。しかし，その中で，保健科教育の重要性を人一倍感じておりましたので，教材研究に充てる時間を多く費やしました。私は，保健体育科の教員として，『保健の“思考力”+体育の“活動力”=「健康力」』という考えを自身の教科指導方針としています。保健体育を学ぶことで，豊かな人間性を養い，生涯を通じて安全で健康な生活を送ることができる生徒を育成すべく，保健と体育に偏りがいいように心がけています。これまででも学習指導要領を何度も繰り返し見ながら，その時代や対象となる生徒にあった授業ができるように研究してきました。

2000年に現在の学校に着任し，保健科教育がとても充実していることに喜びを感じました。他教科のカリキュラムと保健科のカリキュラムをみくらべ，「生老病死」というテーマを掲げ，その内容を精選した経験が，今回の編集協力・校閲にもとても役に立ちました。

3-3・新たに調べたり，学んだりしたこと

改めて，日本国憲法，教育基本法，学校教育法，学習指導要領を見直しました。

特に高等学校学習指導要領に示されている内容を再確認し，現場で指導しやすいように，重要語句が適切かどうか，授業全体の流れと重要語句の関連性がスムーズかどうか考えながら作業を進めました。中学校学習指導要領も再確認し，中学期で身についた基礎を，高校期で学ぶ内容と照らし合わせ，高校生として学んで欲しい内容になるように気を配りました。

そして，図表・写真・資料に間違いがないか一つ一つ確認をして，最新のデータを調べ直すことで，自身の授業にもとても役に立ちました。本教科書を手にした生徒が，自分の問題として捉え，実生活に即して考えられるように配慮しました。また，文中に出てくる法律を確認する作業において，施行や改正された時期の表記を統一させ，生徒に時代背景を意識させるように心がけました。

3-4・苦労したこと

日中は校務に専念し，勤務先では，一切教科書の仕事は行いませんでした。帰宅後，家族（妻・息子・娘）との時間を過ごし，家族が寝静まってから作業をしていました。ですから，原稿を手にしてから締め切りまでの約1か月半の間，随分と睡眠時間が少なく，その中で健康面に留意していました。年末年始を含む冬休みの時期もありましたから，まとまった時間も確保でき，集中して取り組むこともできました。

図表などのデータは，インターネットで調べる時間が多く，その情報が正しいかどうか，新聞や他の教材とも比べながら，複数のもので照らし合わせて確認していきました。

4：編集協力・校閲後の感想

はじめに感じたことは，教科書の大切さです。勿論，そのことについては理解していたつもりですが，製作側を経験してみると，その思いは強くなりました。一人一人の教員が責任をもってこの

ことに留意し、自己研鑽に努めて実践することによって、教科書をより有効に活用する能力が高まるのではないのでしょうか。

次に、「ベーシック版」・「スタンダード版」・「アドバンス版」といったように、生徒の意欲や学力レベルに合わせて難易度に差がある教科書を作成したいと考えました。習熟度や学習意欲によって使い分けることで、より学習成果が高まることが期待されます。

そして、教科書編集に携わったことで、改めて強く感じたことは、「いのちの教育」の必要性です。現在、核家族化が進む中、少子化の問題やいじめ・自殺の問題が大きく取り上げられています。「いのちの教育」を“人生の必修科目”と捉え、この保健が合教科の中心になることで、学習効果が高まり、人間形成に役立つ教育が可能になってくるのではないかと思います。今後、ますます高齢化が進む中で「高齢者医療」・「死生観」についても考える機会を増やす必要があると考えます。より身近な内容や、興味関心がもてる内容にすることで、生徒たちの意欲に結び付き、健康で豊かな生活を送れるようになって欲しいものです。

また、視覚面において、カラーバリアフリー(ユニバーサルデザイン)を採用されていることに気付きましたが、このような配慮もとても大切だと感じました。

5: 今後に向けて

学習指導要領では、中学保健体育の授業を各学年で105コマずつ行い、このうち保健を3学年で48コマ程度行うこととしています。高校保健体育は、標準単位が、3か年で体育7~8単位、保健2単位となっています。

2016年6月上旬に東京都東村山市の中学校で、保健の授業が数年間行われていないということが話題になりました。中学期、高校期に、心身のこと、いのちのこと、社会生活のことをしっかり学ぶ重要性を考えれば、保健体育の授業をバランスよくきちんと実施することは大変大切である

と言えます。

残念なことに、保健体育科の先生方の中には、保健の授業に対する意識があまり高くないという現状があると考えられます。それを改善していくためにも現在の『保健体育科』という免許状を将来的に、『保健』と『体育』の免許状が別々になり、中学期・高校期により充実した保健科教育が行われることを強く望みます。

6: さいごに

現在、教育界は、学修者が能動的に学ぶ、“アクティブ・ラーニング”が話題です。教科書通りに、教員から一方向の講義形式の授業ではなく、生徒たちが自ら進んで学ぶ学習法が取り上げられています。今回、今一度、教育とは何かということを考え直してみました。教育とは教えることではなく、育てることだと思います。例えばそれを不等式で表してみると、「教<育」です。解りやすく簡潔な記述も大切ですが、解りにくい表現や、解らないことに自ら進んで理解しようとする能力も育てないといけないと痛感しました。そしてこれからも、教科書や教員は単なる支えであって、生徒が主体的に学び、生徒の意欲を喚起させられるきっかけを与えていきたいと強く感じております。

私は、様々な職業がある中で一人の人の人生を変えるきっかけを与えることのできる教員という仕事に誇りを持っています。その一方で、生徒の人生を変えてしまうこの職業が恐ろしいものだと感じています。時には、その責任に押しつぶされそうになるときもありますが、これからも、生徒の人生をいい方向に変えられるよう、そして、いい教育活動ができるように、研鑽を積み、励んでまいりたいと思います。

【主な活動実績】

- 2009.7.28 『いのちの授業』【読売新聞】朝刊 教育ルネサンス掲載
- 2010.2.19 (公社)日本臓器移植ネットワークにて、移植コーディネーターに向けた講演
- 2011.10.16 グリーンリボン DAY 制定イベント「公開授業 話そうを探そう!スクール」公開授業
- 2011.11.10 『いのちの授業~生老病死~』【日刊ゲンダイ】 メディカルライブラリー 掲載
- 2012.3.19 『いのちの教育』【日本教育新聞】 掲載
- 2012.6.1 『臓器移植 いのちについて考える保健の授業』【第一学習社】エデュカーレ 執筆(*1)
- 本文参照
- 2013.3.11 『今、求められるいのちの教育』座談会 【日本教育新聞】 掲載
- 2013.3.21 『臓器提供 意思表示について』【産経新聞】 掲載
- 2013.7.1 読売教育賞優秀賞受賞 保健体育の部
- 2013.7.19 【進路指導研究会】 第177回定例会 講演
- 2013年 8月3日,10日,17日,24日,31日 20時45分~21時
FM「私の選択」ゲスト出演 (FMPORT (FM新潟) 79.0MHz)
- 2013.9.20 エデュコミュニケーション21教育セミナー2013 in長崎【日本教育新聞社】
授業実践発表講演
- 2013.10.1 千葉県立千葉中学校 出張道德授業
- 2013.10.31 桜華女学院 出張道德授業
- 2014.3.3 『いのちの授業~臓器移植~座談会』【日本教育新聞】 掲載
- 2014.3.10 目黒区立目黒第8中学校 出張道德授業
- 2013年度 東京私立中学高等学校協会優秀教員
- 2014.10.19 第10回市民公開講座【NPO法人ハート to ハート】 講演
- 2015.1.19 『いのちの講演会』【日本教育新聞】 掲載
- 2015.1.31 いのちの架け橋チャリティーフォーラム2015【ライフブリッジジャパン】 講演
- 2015.1 東書教育賞 入選 道德教育
- 2015.7.4 千葉県立東葛飾高等学校 リベラルアーツ講座 出張授業
- 2015.10.11 第11回市民公開講座【NPO法人ハート to ハート】 公開授業
- 2015.11.26 目黒区立目黒第8中学校 出張道德授業
- 2016.1.27 『学級経営の充実を図るためのクラスだより作り』【東京書籍】 HP 掲載
- 2016.1.28 麗澤中学校 出張道德授業
- 2016.5 『大学入試改革・保健体育科としての関わりと可能性=問題解決能力を養うプログラム=
「サバイバルツアー」~教養と体力を~ソリューション能力を身に付けよう!!』
【第一学習社】エデュカーレ 執筆